霞城

KAJYŌ

第20普通科連隊広報紙　発行所/山形県防衛協会

第20普通科連隊ホームページアドレス
https://www.mod.go.jp/gsdf/neae/6d/unit_hp/20i_hp/index.html
第20普通科連隊　検　索

No.713

「令和3年度 連隊スキー競技会」を実施

本部管理中隊が激戦制す

連隊が一丸となり競技会を成功に収めた

コロナ禍での祝賀

連隊創立66周年記念に伴う「令和３年度 連隊長感謝状贈呈式」を実施

令和３年度連隊長感謝状贈呈式

Contents

２ページ

●本部管理中隊が激戦制す
「令和3年度連隊スキー競技会」を実施

●冬季における射撃能力を向上
「連隊冬季総合戦闘射撃野営」を実施

●必通の精神を習得「令和3年度陸士特技課程『初級部隊ネットワーク』集合教育」を実施

３ページ

●コロナ禍での祝賀　連隊創立66周年記念に伴う
「令和3年度連隊長感謝状贈呈式」を実施

●来場者を魅了「第17回師団音楽まつり」に参加

●奏でる音色は練成の証「令和3年度陸士特技課程『初級らっぱ』養成集合教育」を実施

●「自衛隊入隊予定者激励会」に参加

４ページ

●融和団結を図る
「令和３年度第６回予備自衛官招集訓練」を実施

●隊員紹介コーナー

●各種表彰

●定年退官者紹介

●４月行事予定

2022 March 3

「令和3年度 連隊スキー競技会」を実施

本部管理中隊が激戦制す

一斉にスタートを切る

女性隊員も熱い戦いを繰り広げた

1位でゴール、渾身のガッツポーズ(幹部個人機動の部)

ストックタッチで次走者に繋ぐ

「中隊対抗の部」優勝　本部管理中隊

3月3日(木)、駐屯地営庭において「令和3年度連隊スキー競技会」を実施した。

本競技会は若年隊員のスキー能力の向上を図るとともに、部隊の団結の強化及び士気の高揚に資すること、またコロナ禍において減少した競技会の統裁要領、実施要領等の継承を目的として、「中隊対抗の部」「女性隊員個人機動の部」「幹部個人機動の部」の3種目が実施された。

競技会に先立ち2日(水)、駐屯地講堂において開会式が実施され、統裁官(連隊長：荒木1佐)は「勝利を追求せよ」「安全管理及び健康管理の徹底」の2点の要望事項を述べたほか、選手を代表して第3中隊寺崎士長が選手宣誓を行った。

「中隊対抗の部」は各中隊抽選で選考された1コチーム5名(29歳以下の陸曹2名(Aグループ)、陸士2名(Bグループ)、入隊2年未満の陸士1名(Cグループ))の選手が1周750mのコースを4周して3000mを滑走、2周目からは射撃(交戦戦闘装置バトラーを使用)も行うバイアスロン形式で実施された。射撃では3コ的に対し、5発以内にそれぞれ命中させるもので、2周目は立ち射ち、3周目は中間姿勢、4周目は伏射ちと射法が指定され、外すと1発あたり80m滑走のペナルティが課せられた。「女性隊員個人機動の部」については29歳以下の隊員が7名(陸曹3名、陸士4名)参加し、射撃なしの機動のみで行われ、同コースを2周し1500mを滑走、「幹部個人機動の部」は2尉以下29歳以下の5名が参加し、中隊対抗と同じ要領で実施された。

競技開始直後から、大粒の雪や雨が吹きあれたが、それ以上の各中隊一丸となった応援の中、「中隊対抗の部」の選手たちは勢いよく出走、2歩滑走やスケーティング等を使いこなしながら強靭な機動でコースを周回した。また、射撃時には息切れ等で照準が困難な状況もあったが、応援者が見守る中、深呼吸をして冷静さを保ちつつ、正確な射撃を見せ、命中の判定があると競技は一層盛り上がりをみせた。競技は当初、第2、4中隊が引っ張ったが、後半、本部管理中隊が逆転し、そのまま逃げ切った。それぞれのチームが一致団結して一生懸命にゴールを目指している姿が印象的だった。引き続く、「女性隊員個人機動の部」及び「幹部個人機動の部」においては、応援者の「がんばれ！もう少し！」など気持ちのこもった声援・拍手等を力に変えて、全力で勝利を追求していた。

また、各勤務員、応援者についても新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底しつつ、それぞれの任務を全うし、連隊が一丸となって取り組み、令和3年度を締めくくるにふさわしい競技会となった。

成績紹介

中隊対抗の部
- 第1位　本部管理中隊
- 第2位　第3中隊
- 第3位　第4中隊

女性隊員個人機動の部
- 第1位　重迫撃砲中隊　清水　鈴音　3曹
- 第2位　本部管理中隊　花田　莉緒　3曹
- 第3位　重迫撃砲中隊　伊藤　瑞希　3曹

幹部個人機動の部
- 第1位　第2中隊　坂元　央歩　曹長

敢闘賞
- Aグループ　第1中隊　藤田　淳　3曹
- Bグループ　第4中隊　菅原　佑太　士長
- Cグループ　第3中隊　菅野　颯人　1士

「令和3年度陸上特技課程『初級部隊ネットワーク』集合教育」を実施

必通の精神を修得

実技試験で練成の成果を発揮

広帯域多目的無線機の取り扱いについて学んだ

11月15日(月)から2月17日(木)までの間、神町駐屯地において「令和3年度陸上特技課程『初級部隊ネットワーク』集合教育」を実施した。

本教育は、本部管理中隊長(工藤1尉)が担任官となり、通信手として必要な知識及び技能を修得させるとともに、当該特技職に必要な資質を養うことを目的に行われ、被教育者として、各中隊の陸士計17名が参加した。

教育間、システム通信、通信器材、有線技術、通信術・班(組)訓練、電磁波作戦及びサイバー戦について学んだ。教育当初、被教育者たちは慣れない訓練内容に困惑する場面もあったが、教官・助教に積極的に質問するなど真摯に取り組み理解を深めていた。また、零細時間を活用し、有線の接続や縛着について反復演練を行い、日に日に練度を向上させた。

2月14日(月)・15日(火)には連隊通信庫において、特技検定(実技・学科)が行われ、被教育者たちは、本教育間に修得した知識及び技能を十分に発揮するとともに、「必通の精神」をもって一生懸命に取り組み、全員が検定に合格した。

特技認定を受けた被教育者は、今後訓練や演習等において通信手として各中隊で活躍することとなる。

「連隊冬季総合戦闘射撃野営」を実施

冬季における射撃能力を向上

夜間射撃

スキーストックを使用した小銃射撃

2月16日(水)から19日(土)までの間、王城寺原演習場において「連隊冬季総合戦闘射撃野営」を実施した。

本射撃野営は、各種火器の射撃練度の向上を図るとともに、積雪寒冷下における射撃訓練を実施し、冬季における射撃動作を演練することを目的に実施された。

射撃準備期間の16日(水)、演習場内の経路及び射場は積雪により、車両の通過、射場構成などが困難な状況であったが、各中隊は安全管理を万全にそれぞれの射場の除雪作業を実施し、済々と射場構成を進めたほか、第6施設大隊の支援を受け、移動経路等の除雪を行い、射撃訓練の準備を完整させた。

17日(木)、第3中隊が01ATM射撃を担任し、第1・3・4中隊の射手計4名が演習弾の射撃を行ったほか、戦闘射場において第1中隊がGICCS(戦闘訓練射撃シミュレータ)を活用した射撃訓練を、第3中隊が小火器戦闘射撃を実施した。第3中隊の小銃分隊は分隊長の指揮の下、機関銃、狙撃銃の射撃と連携を図りつつ、目標に緊迫、個人携帯対戦車弾や、てき弾射撃で目標に損耗を与え、小銃手はそれぞれの目標に対し速やかに火力発揮するなど、射撃練度を向上させた。

18日(金)には戦闘射場において第1中隊が重機関銃射撃を、第2中隊が小火器戦闘射撃を、第4中隊がGICCSを用いた射撃訓練を、第2爆破訓練場では、第4中隊が81M迫撃砲射撃を実施した。

特に81M迫撃砲射撃では、分隊長の力強い号令とともに射撃が開始され、小隊長、前進観測班、射撃指揮班、各分隊の密接な連携を図り、一致団結して日頃の練成の成果を発揮していた。

また、第2中隊が夜間における小銃射撃を実施、暗闇で視界が制限され、寒さで手がかじかむ状況の中、隊員は冬季および夜間における射撃要領、小銃操作要領について練成したほか、各勤務員が安全に関する注意喚起や点検を実施するなど、全隊員が集中して取り組み、限られた訓練機会の中、夜間における射撃練度を向上させた。

連隊は本射撃野営を通し、冬季における各種火器・火砲の射撃練度向上及び射撃指揮能力の向上を図ることができた。

重機関銃射撃

81M迫撃砲射撃

記念写真

コロナ禍での祝賀
連隊創立66周年記念に伴う「令和３年度 連隊長感謝状贈呈式」を実施

2月20日(日)、厚生センター多目的ホールにおいて連隊創立66周年記念に伴う「令和3年度連隊長感謝状贈呈式」を実施した。

本来ならば、「連隊創立66周年記念式」を挙行し、平素より御支援・御協力を頂く部内外の関係者及び関係諸団体から多数のご来賓のご臨席を賜り、感謝の意を表するとともに、歴史ある20連隊の創立66周年を祝福する計画であったが、県内の新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、規模を縮小して、「令和3年度連隊長感謝状贈呈式」及び「懇談」のみが行われた。

式には、20連隊の発展のため永年にわたる御尽力と御協力を頂いた、連隊ＯＢ会会長 村山勝明 様、山形県隊友会東根支部支部長 日下部彰 様、東根市自衛隊家族会会長 小関善次郎 様、株式会社チェリーランドさがえ代表取締役社長 本間安信 様、三澤商事株式会社代表取締役 三澤英昭 様、連隊ＯＢ会 瀧田豊 様、佐藤博幸 様、菅野喜昭 様、の8名が来隊され、連隊長より感謝状が贈呈された。また3月8(火)日には、ホウトクＨＯＵＳＥ株式会社様に連隊長が訪問し、感謝状を手渡した。

式終了後には、作戦室において懇談が行われ、令和3年度の連隊の活動を紹介する動画放映などがあり、時折、笑いが起こるような和やかな雰囲気で懇談は終了した。

連隊は創立66周年記念式を行えなかったものの、隊員一同が20連隊に所属できている喜びと誇りを胸に抱き、如何なる任務にも、即応できる態勢を整え、適切に対応できるよう、荒木連隊長要望事項である「凡事徹底」を具現化し、「唯一無二」の部隊であれるよう、引き続き連隊に期待されている役割を全うし、真摯な姿勢で任務に邁進していくことを誓った。

ホウトクHOUSE株式会社様に連隊長が訪問

和やかな雰囲気のなかで懇談

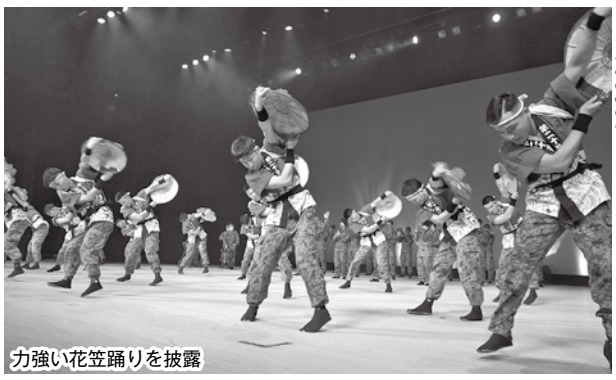
来場者を魅了
「第17回師団音楽まつり」に参加

2月27日(日)、やまぎん県民ホールにおいて行われた「第17回師団音楽まつり」に参加した。

本行事には連隊から花笠踊り23名(歌い手含む)、師団隷下部隊で編成されたらっぱ隊に4名、各種勤務員が8名参加したほか、重迫撃砲中隊 橋本未句士長がアコースティックギターを用いた弾き語りと音楽隊との合同演奏を披露した。

公演は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、一般公募を中止し、出演隊員のご家族、招待者のみの来場となり、午前と午後の2回公演が実施された。いずれも見どころ満載で構成された1時間30分となっており、第6音楽隊の演奏をはじめ、師団らっぱ隊が勇壮なドリル演奏、20連隊が自衛官らしい力強くキレのある花笠踊りを実施した。また、公演終盤には重迫撃砲中隊 橋本未句士長が、Ｗｈｅｒｅｖｅｒ ｙｏｕ ａｒｅ／ＯＮＥ ＯＫ ＲＯＣＫ、ラブ・イズ・オーヴァー／欧陽菲菲、マリーゴールド／あいみょん、の3曲を歌い上げ、ギターの心地よい音色とともに美声を震わせ、観衆を釘付けにしていた。

公演終了後には盛大な拍手が送られたほか、「感動した！」「元気を頂きました。ありがとうございます。」などの感想が多数寄せられた。花笠踊りに踊り手として参加した第3中隊 川口3曹は「今回が初めての参加だったが、事前訓練で準備を万全にして本番に臨むことが出来た。緊張したが20連隊の花笠踊りを楽しんでもらえてよかった。」と述べた。ギター弾き語りで出演した橋本士長は「ステージに立つ時は緊張しましたが、とても楽しく演奏することができました。音楽隊と合同演奏できたことはいい経験になりました。ありがとうございました。」とコメントしていた。


力強い花笠踊りを披露

師団らっぱ隊

音楽隊とのコラボ演奏
(重迫撃砲中隊：橋本士長)

花笠音頭を歌う(重迫撃砲中隊：石山２曹)

「令和3年度 陸士特技課程『初級らっぱ』養成集合教育」を実施
奏でる音色は練成の証

節度ある基本教練で報告

緊張しつつも、堂々と吹奏

11月17日(水)から2月18日(金)までの間、神町駐屯地において「令和3年度陸士特技課程『初級らっぱ』養成集合教育」(担任官：第4中隊長 大東1尉)を実施した。

本教育は、らっぱ手として必要な知識及び技能を修得させるとともに、特技職に必要な資質を養うことを目的に行われ、被教育者として各中隊等から計14名(内1名が第6特殊武器防護隊)が参加した。

3ヵ月間の教育では、発声法と呼吸法の修得のほか、譜表及び音符、休符を正確に記譜することを修得する「唱譜・聴音」、らっぱ吹奏の基本奏法やブレスコントロール、タンギングを修得するための「楽器練磨」、吹奏行進の諸動作や行進譜の吹奏を修得する「行進訓練」の3つの教育項目を練成した。

2月16日(水)には特技検定が講堂で行われ、検定官として第6音楽隊から1名の支援を受け、被教育者は課題曲の「送迎の譜」と自由曲の2曲を発表した。吹奏する被教育者は、教官・助教が見守るなか、緊張した様子だったが、一生懸命に吹奏を実施し、本教育で修得した技能を十分に発揮していた。

教育に参加した14名の学生は無事に「初級らっぱ」の特技を取得し、「日頃から練成を継続し、警衛勤務等、らっぱ吹奏をする機会に備えたい」とコメントしていた。

『自衛隊入隊予定者激励会』に参加

本部管理中隊　清水３曹

本部管理中隊
結城1士

3月3日(木)、村山市農村環境改善センターにおいて行われた「村山市自衛隊入隊予定者激励会」及び6日(日)、山形テルサで実施された「山形市自衛隊入隊予定者激励会」に参加した。

「村山市自衛隊入隊予定者激励会」には、本部管理中隊 結城宏斗1士が村山市出身先輩隊員として、入隊予定者3名に対し、激励の言葉を贈り「入隊後は、一生懸命に訓練に励むとともに、同期との絆を築いていきましょう。コロナ禍ではありますが元気に入隊してくることを祈念します。」と述べた。

「山形市自衛隊入隊予定者激励会」では、本部管理中隊 清水菜未3曹、第1中隊 佐藤俊喜3曹、第3中隊 海老名美咲1士の3名が参加し、入隊予定者22名に対し、入隊後の生活や訓練について詳しく説明を行ったほか、現在の役職やそれまでの過程、訓練を行うなかでのやりがい等を伝えた。

また、入隊予定者から寄せられた質問については親身になって丁寧に回答し、入隊に対する不安を払拭することができ、入隊予定者は自衛隊への関心を更に膨らませていた。

連隊は今後も自衛隊入隊予定者激励会への参加を通じ、入隊予定者に対する激励等を行い、募集業務に積極的に協力していく。

先輩隊員として入隊予定者を激励

第1中隊
佐藤3曹

第3中隊
海老名1士

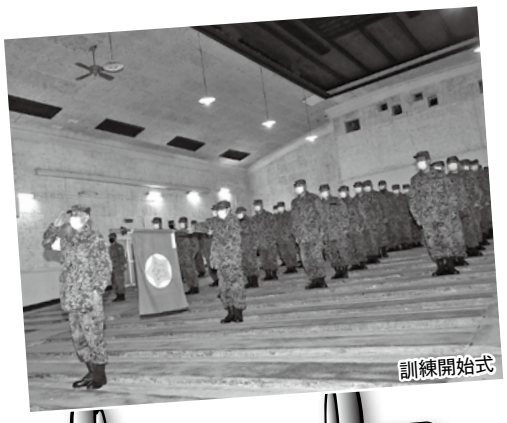
融和団結を図る「令和3年度第6回予備自衛官招集訓練」を実施

3月4日(金)から8日(火)までの間、神町駐屯地において「令和3年度第6回予備自衛官招集訓練」を実施した。

4日、訓練開始式が駐屯地講堂で行われ、連隊長(荒木1佐)は「任務を意識し、各種訓練に真剣に取り組んでもらいたい」「融和団結」「健康管理」の3点を要望、「感染症対策を万全にし、本訓練の目的を十分に達成する事を期待する」と述べ訓示した。

本訓練は、重迫撃砲中隊(中隊長：佐藤1尉)が担任し、基本教練、射撃訓練、体力測定、職務訓練及び救急法、そのほか、特殊武器防護訓練を実施した。

訓練間、参加者は疑問点を教官・助教に積極的に質問して理解を深めるなど熱心に取り組みつつ、久々に再会する旧友や現役隊員との親交を深めていた。


訓練開始式

特殊武器防護訓練

定年退官者紹介

永年の勤務、お疲れ様でした。

・本部管理中隊
・工藤　智久　1尉
・3月14日付
・村山市在住

・本部管理中隊
・内田　一彦　准尉
・3月14日付
・天童市在住

・本部管理中隊
・平山　清二　准尉
・3月16日付
・天童市在住

4月行事予定

3日(日)・自衛官候補生入隊式

17日(日)・第6師団創立60周年・神町駐屯地創立66周年記念行事参加

26日(火)～**29**日(金・祝)・山形県縦断駅伝競走大会協力

各種表彰

【第6師団長より顕彰状】
〇師団優秀隊員
(平成15年度から令和3年度までの間、部隊レンジャー及び師団レンジャー集合教育における先任助教・令和元年度新隊員特技課程教育における区隊長としての功績)
・第3中隊　曹長　今野　博一

【第6師団長表彰】
〇第3級賞詞
(職務遂行)
・連隊本部　3佐　深瀬　紀明
・　同　3尉　佐藤　薫
・第1中隊　2佐　野村　貴志

【連隊長表彰】
〇第4級賞詞
(業務改善)
・連隊本部　2佐　浅野　尚之
(職務遂行)
・本部管理中隊　2尉　阿部　剛之
・　同　曹長　伊藤　周央
・　同　1曹　相澤　哲
・　同　1曹　齋藤　雄二
・　同　2曹　菊地　康敏
・　同　2曹　渡辺　健次
・　同　2曹　榎本　幸司
・　同　3曹　富樫　智也
・第1中隊　2尉　土田　元輝
・　同　曹長　菊地　良一
・　同　3曹　笹　円
・第2中隊　曹長　栗田　秀信
・　同　1曹　村上　純一
・　同　3曹　佐々木博紀
・　同　3曹　有路　圭佑
・第3中隊　曹長　大石　賢治
・　同　2曹　佐藤　洋一
・　同　2曹　赤根　竜太
・　同　3曹　正野　貴大
・第4中隊　曹長　鈴木　達也
・　同　曹長　黄木　泰博
・　同　2曹　安部　孝幸
・　同　2曹　土田　徹
・　同　3曹　根本　翔太
・重迫撃砲中隊　曹長　五十嵐　達
・　同　2曹　加藤大志郎
・　同　3曹　菅原　浩也

(車両無事故走行5万キロ)
・本部管理中隊　1曹　佐藤　祐一
・　同　2曹　沓澤　拓
〇第5級賞詞
(業務改善)
・連隊本部　2尉　佐藤　健
(職務遂行)
・本部管理中隊　2曹　釼持　翼
・　同　3曹　平井　翔平

【服務優秀中隊】
(無事故日数500日達成)
・第1中隊

【第2陸曹教育隊長より褒賞状】
(第10期陸曹中級課程において成績優秀)
・第1中隊　2曹　五十嵐祥倫

【2月警衛勤務優秀らっぱ手】
・第4中隊　士長　上野原大夢
(1日上番)
・第1中隊　3曹　藤田　淳
(3日上番)
・第2中隊　士長　伊藤　陸人
(22日上番)
・第1中隊　3曹　武田　迅
(23日上番)
・重迫撃砲中隊　1士　高橋　咲羽
(24日上番)

スキー指導官認定おめでとう

●中隊　本部管理中隊
●名前　生田　凌(いくた　りょう)
●出身　東根市
●コメント
今回、無事に指導官に認定して頂くことが出来ました。とは言っても、まだまだ技術が足りていなことは自分が一番分かっているので、引き続きジャングルジャングルに通って技術向上に努めていきます。
ご指導頂いた指導官の方々、応援してくださった部隊の方々、本当にありがとうございました。

●中隊　本部管理中隊
●名前　大類　駿也(おおるい　しゅんや)
●出身　大石田町
●コメント
この度、部隊スキー指導官に認定して頂き、それまでの間、訓練に集中できる環境づくりをしてくれた家族、中隊の皆様。また、指導していただいた教官・助教の方々には大変感謝しています。
これからは、訓練で培った知識・技術を中隊等に普及し、戦力向上に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。

●中隊　本部管理中隊
●名前　今田　大貴(こんた　ひろき)
●出身　天童市
●コメント
指導官に認定されて本当に嬉しい気持ちです。指導官を目指すと決めてから認定されるまでの期間を通じて、目標に向かって努力することの大切さを改めて実感しました。
訓練に集中できる環境づくりをしてくれた指導部や中隊の方々、同じ目標を持ち支えてくれた同期、応援してくださった方々に感謝し、引き続き指導官としての知識及び技術向上に努めていきます。

●中隊　第2中隊
●名前　栗田　大嗣(くりた　だいし)
●出身　金山町
●コメント
養成訓練は、2回目の挑戦ということで1回目以上のプレッシャーがありました。無事認定を頂くことが出来ました。ここまでやれたのも、中隊の皆様、家族の支えがあったからだと思います。ありがとうございます。
これからは、スキー技術・知識の普及はもちろんのこと、スキー訓練の重要性、楽しさを伝えていきたいと思います。

●中隊　第3中隊
●名前　本間　駿也(ほんま　としや)
●出身　南陽市
●コメント
指導官の皆様から丁寧に指導して頂き、無事に指導官になることが出来ました。これからは指導官として、スキーの楽しさ、重要性を皆さんに伝えていきたいと思います。

●中隊　第4中隊
●名前　武田　璽(たけだ　るい)
●出身　天童市
●コメント
訓練等考慮してくださった皆様、応援してくださった皆様ありがとうございました。
スキー指導官として、最新の技術、知識を中隊の隊員に普及していけるように頑張ります。

●中隊　重迫撃砲中隊
●名前　笹原　一将(ささはら　かずまさ)
●出身　大石田町
●コメント
これからはスキー指導官として「大回り・小回り・挨拶回り」をモットーに邁進していくとともに、中隊に技術・知識を普及させていきたいです。

隊員紹介コーナー

格闘指導官認定おめでとう

●中隊　本部管理中隊
●名前　佐藤　諒(さとう　りょう)　3曹
●出身　秋田県秋田市
●コメント
教育を通して知識・技術はもちろんとして成長することができました。
これからは橋本2曹のようなユーモアある指導官として継続した練成、後輩隊員の育成に努めていきたいです。

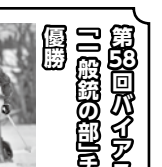
●中隊　本部管理中隊
●名前　早坂　和樹(はやさか　かずき)　3曹
●出身　酒田市
●コメント
大きな怪我をすることなく無事に教育を終えることが出来ました。練磨無限!!

●中隊　第1中隊
●名前　角川　勇治(つのかわ　ゆうじ)　3曹
●出身　河北町
●コメント
中隊の皆様、家族に感謝して、これから格闘指導官として精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

●中隊　第2中隊
●名前　佐藤　圭太(さとう　けいた)　3曹
●出身　新庄市
●コメント
指導官になれたのは、中隊、拳法訓練隊の方々の支えがあったからだと思っています。本当にありがとうございました。
今後は、感謝の気持ちを忘れることなく、日々成長できるように努力していきます。

●中隊　第2中隊
●名前　松木　勇(まつき　ゆう)　3曹
●出身　長井市
●コメント
これまで格闘に集中できたのも、教官・助教・中隊の皆様のおかげです。ありがとうございました。
これからは、指導官として格闘の魅力、重要性、を伝え少しでも多くの隊員に格闘に興味をもっていただけるように頑張ります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

●中隊　第2中隊
●名前　田村　東空(たむら　あずま)　3曹
●出身　尾花沢市
●コメント
格闘の技術はもちろん、精神面でも大きく成長することができた教育でした。
この教育で学んだ事を中隊に普及し、少しでも中隊の格闘の練度向上に貢献していきたいです。



第58回バイアスロン日本選手権大会「一般銃の部」チームコンペティション優勝

(右：正野3曹　左：阿部3曹)

●第2中隊　阿部　譲　3曹
●出身　尾花沢市
●コメント
12月から活動開始という短い練成期間でもしっかり目標をもって取り組んだかいがありました。今回の優勝は周りの支えがあってこそだと思います。チームの皆さん、中隊の方々、家族には本当に感謝しています。
●第3中隊　正野　貴大　3曹
●出身　金山町
●コメント
自身初優勝です。
連隊のご理解・協力、教官・助教、一緒に走った阿部3曹に感謝しています。

第2中隊
阿部　譲　3曹
(あべ　ゆずる)
第3中隊
正野　貴大　3曹
(まさの　たかひろ)　ペア

令和四年三月三十一日発行　発行所／山形県防衛協会　印刷／藤庄印刷株式会社